

# 両トロロ口の釣り

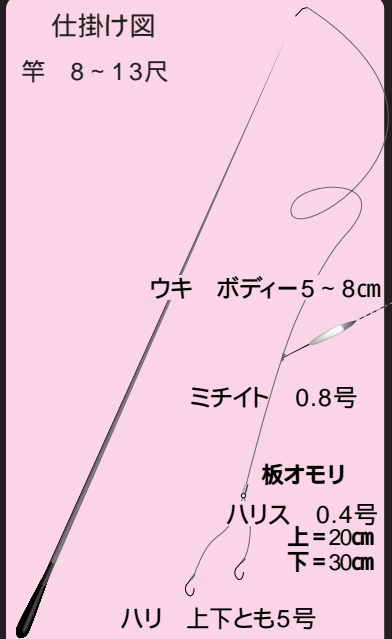
## 最近の傾向

この時期の管理釣り場では下バりにヒゲトロ口を付けるセット釣りが現在は主流になっているが、以前はトロロ口といえはこの両トロロ口の釣りが主流だった。トロロコンブと麩エサを練り合わせた独特のヌルヌルしたエサは、慣れないとどうしても使い勝手が悪く敬遠する人も多いが、このエサの持つ高い効果を一度知ってしまうと、病み付きになっ

てしまうほどである。暖期の管理釣り場はへら鮒がウワズリやすく、時には水面が真っ黒になるほどわき上がる。そんなときでも、トロロエサを使うとウキをなじませやすくなり、フワツとさわってカチツという強いアタリを連続させてくれる。無駄なウワズリがないため、タナが落ちて着いて型物も釣りやすくなり、余分なスレアタリも少ない。さらに、ダンゴエサでは追求しきれない段階

まで、トロロエサはやわらかくしていくことができる。このため、カラッソに対する効果が高く、決まればまさに入れ食い状態で乗ってくる。しかし両トロロ口には弱点も存在する。それはバラケ性・寄せる力である。管理釣り場は、年を追うごとにへら鮒が大型化しつつある。そのために同じ放流量でも枚数は少なくなっている。つまり頭数が減ったへら鮒をみんなで取り合うことになり、寄せる力が

年々重視されるようになった。これが上バりにバラケを付けるヒゲトロ口の釣りをさらに広めることになっている。しかし、トロロエサは食い渋りに強いという特徴も持っている。大型ほど食い渋りやすいのだから、両トロロ口の効果はまだまだ大きい。また、大型中心の池でも平日はへら鮒がほとんどウワズるのが、この時期では当たり前。こんなとき、両トロロ口の釣りは爆釣の可能性を秘めている。



## 基エサ

推薦釣法 = 管理釣り場で1mのタナ狙い

極上とろろ(分包1袋) +  
極上とろろハード(分包1袋) +  
水600cc + とろスイミー100cc +  
とろ選200cc

以上が釣行前に作っておく基エサになる。



寄せパワーをアップしたい時は、「とろ選」の替わりに「バラケG」を使う



+



+



+



+



### ●エサ(基エサ)の作り方の手順

「極上とろろ」と「極上とろろハード」は、分包から出したらよくほぐして混ぜ合わせておくこと。ほぐしを雑にすると、トロロにダムがでやすい。ほぐしたトロロには、これもダムを防ぐために、なるべくムラのないように水を注ぎ入れる。トロロに水がしみこんだら、10分ぐらい放置したほうがよい。

水を吸ったトロロに、「とろスイミー」100ccを振りかけたら、5本指を立てて前後左右に振るようすると混ぜやすい。

「とろ選」200ccは十分に時間をかけ、とろろの繊維に無理をかけないように押し込んでいく。ひと粒丸め、水中に入れたとき、浮き上がらずにゆっくり沈んでいけばベストの状態だ。できればこの基エサは小分けしてビニール袋に入れ、クーラーボックスで保管して釣り場に持参したい。

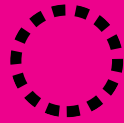
### ●エサ使いのコツ



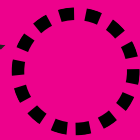
まだごくやわらかい基エサを一掴み分出し、「とろ選」一掴み分を加えて押し込んでいく。このとき、トロロの繊維を切らないよう注意する。「とろ選」の量は、何gというよりも、やわらかい基エサが自分でハリ付けできるようになるまでが目安。ハリ付けは直径15~17mmぐらい。ヌルヌルしたエサなので、正確に丸や雨だれ型にハリ付けするのは難しいが、丸めたエサの下からハリを引っ掛けるようにエサの中心部に入れるのがコツ。

基エサに加える獣エサには、もうひとつ、「バラケG」をふるいにかけてたものも用意したい。休日で混雑しているときや、寄せパワーが最初から必要と判断されたときは、「とろ選」ではなく「バラケG」を基エサに混ぜていく。

### エサの大きさ & オモリ量



エサ  
実寸大



エサのサイズ  
直径15~17mmくらいの大きさにていねいにハリ付けて打っていく。

板オモリ  
実寸大

オモリ量  
ウキの浮力の目安は、0.25mm厚の板オモリで1.7cm x 2cm

# 両トロ口の釣り こんな時どおする？



Q1  
アタリが少ない  
ウキがどんどん  
なじんでしまう

A1

ひとつはハリスを伸ばしていくこと。ダンゴに比べてバラケ性が少ない分、両トロ口の釣りはハリスワークが決め手になることが多い。一度に3～5cmずつ伸ばしてみよう。次はエサ。まずはやわらかくしてみる。それができないときは、「バラケG」を追い足していく。ただし「バラケG」を追い足しすぎると、トロ口の繊維が切れやすくなり、ハリ持ちがわるくなるので注意すること。

Q2  
アタリが多すぎる  
ウキが入りづらい  
エサが持たない

A2

ハリスを短くしていく。3～5cmずつ詰めてみよう。ウキを入りやすくするには、ひとつの方法としてエサを重くすること。「とろスイミー」を追加して重くする。ただし「とろスイミー」を直接追加するのは×。少量ずつとろスイミーを水になじませてから混ぜ込んでいく。

エサを硬くしてウキを入れやすくする方法 トロ口の繊維を切らないよう注意しながら、「とろ選」を追い足していく。

トロ口の繊維そのものを多く強くする方法 「極上とろるハード」をいったん水になじませてから、エサに追加して混ぜ込んでいく。

Q3  
カラツンを  
消したいとき

A3

カラツンの原因の大半はエサの持ち過ぎと大きすぎ。だから、まずエサ付けを小さくしたり、手水でやわらかくする方法を取ってみる。これとは逆にエサの芯残りが足りないためのカラツンもある。Q2と同じように「極上とろる」を水になじませてから追加してみる。あるいは「とろ選」で硬くすることでカラツンが解消することも。

